

## FD推進委員会が推奨する授業公開科目一覧

(平成27年6月22日現在)

科目名	授業形態	開講クラス	担当者名	曜日	参観が望ましい日程	受講者	教室	科目目的	到達目標	授業方法	特記事項(あれば)
1 国語科指導法Ⅲ	講義	大日3AB	村山 太郎	土2	特になし	32名	L1-703	本科目は、中高教科国語を教授するに足る基礎的知識及び技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。とりわけ、本科目は、中高教科国語を教授するに足る授業の組織化の方法について理解するとともに、これを以て国語科授業空間として構築する力の習得を目的とする。 上記目的を踏まえ国語科指導法の観点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。	学生は、下記目標に到達することにより教職実践力を構成する国語科教育における想像力を高める。 中等教育国語科教育を、授業空間の組織化の技法を通して考え、授業での立ち居振る舞いを身に付ける。 教職課程履修学生は、学習内容を当該の中高教科内容及び教材に関連づけて主体的に探求する。	講義・演習・対話・グループ学習	模擬授業と質疑応答、講評
2 グローバル化と日本A	演習	大英3S	Nathanael Rudolph	水2	特になし	14名	L1-503	The purpose of this course is to equip students to examine two different approaches to conceptualizing identity- "inside" and "outside," and "us" and "them" in Japan. Drawing upon these two approaches, students will then explore how "globalization" has been and is being conceptualized and approached within Japanese society.	This content-based course, in concert with other upper-level courses within the ACE program, is intended to equip students with linguistic, socio-cultural and academic knowledge that will prepare them for global (local and global) interaction, whether personal or professional in nature. The course contextualizes theoretical and practical debates relating to identity and globalization, and therefore pays particular attention to Japan, East Asia and other linguistic and cultural discourses and peoples implicated in Japan's ongoing negotiation of its nature and place in the global community.	The instructor will cultivate a classroom environment that encourages students to engage and interact with each other and the teacher. The instructor will provide course materials that connect with students' learning needs and personal and professional goals for tertiary study. The course will equip students both to actively pursue linguistic and socio-cultural knowledge pertinent to their lives and future pursuits, and to contribute to enriching the learning experience of their classmates.	
3 理科指導法	講義	大教3A 大教3B	藤本 勇二	木1 木3	特になし	52名 48名	SE-612	小学校理科教育の理論の理解と体験的活動を通して、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。	(1)小学校理科教育の目標・内容・方法・評価について理解する。 (2)小学校理科の授業を計画することができる。	模擬授業 教材製作 発表	
4 心理実験実習Ⅰ	実験実習	大心2AB	竹中 一平	火1 火2	6月23日 2限	120名 (40名)	L1-304	心理学の基礎的な実験・測定方法に習熟し、3年次以降の卒論研究に資する方法論的基礎を形成する。	1. 実証的研究方法に関する実践的スキルの基礎を習得している。 2. データ分析や数量的思考に関するスキルの基礎を習得している。 3. 研究の立案や計画に関するスキルを習得している。 4. 科学的論文作成スキルの基礎を習得している。 5. 研究に必要な情報収集スキルの基礎を習得している。	実験実習、双方向授業、問題発見・解決型授業	6月23日(火)2限にL1-304教室にて、SONYの「デジタルペーパー」を活用した授業を行います。SONYの協力の下、40名の学生全員に1台ずつデジタルペーパーを貸し出し、グループ課題を実施する予定です。お気軽にご参観下さい。
5 健康・スポーツ科学論	講義	新健1AB 新健1CD	伊東 太郎 渡邊 完児	火1 火4	6月中が 望ましい	89名	MM-701	健康・スポーツに関する科学的アプローチは、研究方法によって細分化され多岐にわたる。スポーツ科学分野では、主として自然科学領域に焦点をあて、スポーツの科学的理解を中心に進める。一方、健康科学分野では、健康に関連する諸問題について、歴史的な背景を理解し、今後の健康の維持・増進に対する展望について考えさせることをねらいとする。	スポーツ科学分野では、スポーツパフォーマンス発揮のために様々な身体機能や種々の要因が関与しており、それぞれの関わりをエビデンスに基づき学修するとともに、実際のスポーツ場面に活用していくための基礎的知識を理解することを目指す。 健康科学分野では、健康の概念を理解するとともに自身の健康観をもってもらいたい。そのうえで、我が国の「国民健康づくり対策」の課題解決に何が必要なのかを考え、そのために健康・スポーツ系の知識がどのような場面で活かせるのかを理解する。	この授業は講義型授業であるが、双方向授業として学生が自分の意見を積極的に発言できる場面を多く設定している。	最後の3回は、学生のプレゼンテーションになるので、参観する場合には、それ以前でお願いしたい。
6 生活環境英語Ⅰ	講義	大環2B	森田 雅子	水2	6月24日が望ましいが、それ以外でも可	40名	H3-B102	英語で書かれた生活環境学に関する専門書、広告、新聞、雑誌などの内容を理解できる能力やコンピュータ関連の基礎英語力を養うため、平易な教材を用いて、語彙を増やししながら、英語に慣れ、努力すれば和訳が確実にできる力を修得することを目指す。	学生は以下の3点の目標到達に取り組む。 1. 専門領域の英文記事を理解するために必要な語学力を強化する。 2. 専門領域に関する通信などに対応するための英文構成の基礎を確認する。 3. グローバルな視点とは何か、認識を深める。	・双方向授業、課題発見・解決型授業、講義型授業の手法を取り入れる。 ・専門領域に応じて教材は変わる。 ・学生の進度に応じて、授業を柔軟に運営する。	
7 臨床医学Ⅱ	講義	大食3A	倭 英司	水2	特になし	43名	S-47	傷病者に適切な栄養管理を行うためには、疾患がどのような原因で正常な機能や代謝に歪み(病態)をきたして発症するのか、また、それをどのように診断し、治療をするのかを把握することが必須である。本科目では、それぞれの疾患について概要を学ぶとともに、疾病の病態との関係から栄養管理を考える能力を育成する。	①それぞれの疾患の概要、病因、病態、診断、治療について理解する。 ②疾患の病態に応じた栄養管理を考えることができる。	講義型授業	
8 視覚情報論	講義	大情2AB 大情2CD	太田健一	火2 火3	6月23日	83名 95名	MM-812	生活情報の80%は視覚情報であるといわれている。「百聞は一見に如かず」と言われる所以である。このような重要な情報について考えることで、生活情報の持つ意味や問題点について考える。 なお本科目は、高校教科情報科を教授するに足る専門的知識及び技能等を修得することを一目的とする。	視覚的な情報発信スキルを身につけること。 教職課程履修学生は、当該の中高教科内容との関連性及びその活用方法(教材化)等につき主体的に探究する力を修得する。	講義を受けることと、課題(実習を含む)に積極的に取り組む。	

# FD推進委員会が推奨する授業公開科目一覧

(平成27年6月22日現在)

科目名	授業形態	開講クラス	担当者名	曜時	参観が望ましい日程	受講者	教室	科目目的	到達目標	授業方法	特記事項(あれば)
9 建築設計演習Ⅲ	演習	大築3年	大井 史江 田崎 祐生 三宗 三郎	火34 水34 金34	7月10日 (中間講評)	48名	AS-120	家族や集団のための建築空間を設計する基礎的手法を学ぶことを目的とする。そのため、家族や仲間等の集団生活、あるいは不特定多数の群集の利用のための建築空間を、RC造や膜構造等によって設計する演習を行う。	家族や集団のための建築の設計への理解を通して、「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力をより向上させる。  本科目に対応する建築学科・大学院建築学専攻修士課程(6年)、および建築学科(4年)の学習・教育到達目標(◎は特に対応する到達目標、○は対応する到達目標) ◎D-1(6年)「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的、実践的に実現する能力を修得する。(4年)「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的に実現する基礎的能力を培う。 ○A-1、A-2、A-3、A-4、B-1、B-2、C、D-2	PBL(Problem-based learning・問題解決型学習)。教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評を総合し、学生各自でそれらの意見・評価を解釈し選択して、具体的な作品へまとめあげる。なお第3課題は、海外からの短期留学生と合同で授業を行う予定であり、課題の説明資料等に英語の解説を付記する。	7/10は講評室で中間講評
10 楽器・合奏指導法	演習	大応4	松本 佳久子 竹原 直美	火2	7月28日 (グループ別学習発表)	17名	PS-213	音楽療法を実践する上で大切なのは、クライアントの多様なニーズや状況に応じた音楽を用いることにより、コミュニケーションできる能力である。クライアントとラポールを形成するための選曲や効果的なアレンジやアンサンブルなど、音楽療法に役立つ技術を習得する。	臨床の場を想定したアンサンブルを通して、クライアントの多様なニーズや状況に応じて音楽を効果的にアレンジし、コミュニケーションできる能力を習得する。	グループ別学習など能動的な活動を導入した授業展開を行う。	スペースの都合上、PS213教室付属の観察室から、ご参観をお願いいたします。
11 早期体験学習Ⅰ	学外実習	新薬1AB	豊原 朋子、他	木3 木4 木5	6月25日 7月9日	104名	P5-143 P3-25	薬学科学学生として学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する現場などを体験する。	患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務や地域の保健・福祉を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性を理解できるようになることを目標とする。	・見学体験学習 ・グループ討論 ・発表	6月25日(P5-143)はグループ討論、7月9日(P3-25)は発表・討議を行います。
12 早期体験学習Ⅰ	学外実習	新薬1CD	豊原 朋子、他	火3 火4 火5	6月23日 7月7日	102名	P5-143 P3-25	薬学科学学生として学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する現場などを体験する。	患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務や地域の保健・福祉を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性を理解できるようになることを目標とする。	・見学体験学習 ・グループ討論 ・発表	6月23日(P5-143)はグループ討論、7月7日(P3-25)は発表・討議を行います。
13 解剖生理学Ⅰ	講義	大護1	山添 光芳	木2	特になし	86名	N-101	人間の形態と機能、構造を系統的に学ぶと共に、形態と機能を関連付けて学習し、看護実践の方法や治療の必要性を理解するための基礎知識を修得することを目的としている。	1. 人間の形態と機能、構造について系統的に学び、その基礎的な特徴や働きを説明することができる。 2. 看護や医学的な処置を行う上での注意点を結びつけて、人間の形態や機能、構造を理解する必要性を考察することができる。	講義形式	
14 看護学概論	講義	大護1	阿曾 洋子 久米 弥寿子	火2	特になし	86名	N-101	看護の概念および生活者としての看護の対象に看護を提供するために必要な基本的概念「人間」「看護」「健康」「環境」について学び、また、看護の歴史や看護理論、看護制度、看護教育制度、看護倫理などに関する看護実践の基礎知識を習得する。それを通して、看護の対象である人間について看護の視点から洞察を深めると共に、看護師として必要とされる基本的態度や自己研鑽・看護観構築の必要性を理解する。	1. 看護を提供するために必要な基本的概念「人間」「看護」「健康」「環境」を理解し、看護とは何か、看護師とは何かについて、自分なりの考えをまとめることができる。 2. 看護の歴史や制度から現在の看護の位置づけを記述することができる。 3. 看護理論や看護倫理の必要性と看護実践とのつながりを説明できる。	講義形式	
15 グリム童話の中の女性たち	講義	共通	野口 芳子	木3	特になし	106名	S-21	西洋のメルヒェンを学びながら、その中に現れる女性の生と性、男性の生と性を観察することによって、西洋文化を別の視点から見る目が養える。それによって日本女性である自分の生と性を、より正確に偏見なく把握できるようになれば、というのが担当者の願いである。	伝承文学であるグリム童話を通して西洋中世の人々の生活をジェンダーの視点から考察できるようになる。「女らしさ」「男らしさ」が時代や社会によって変わるジェンダーであることが認識できるようになる。	幼いころ読んだ話とグリム童話決定版の相違について、学生に発表してもらう形式で授業を進めていく。なぜ改変されるのかその理由を皆で考え討論していく。話の中でわけのわからないところ、謎めいているところを皆で指摘し、メタファー解釈という形で担当者がコメントしていく双方向の授業を展開する。(講義形式だが、双方向授業、課題発見・解決型授業を目指す)	
16 アウシュビッツ戦争と女性	講義	共通	河内鏡太郎	月2	特になし	200名	MM-101	2015年は戦争が終わって70年の節目になる。メディアも含めて多くの情報が現出するだろう。戦争体験者は減っていく一方である。戦争遺跡も消えている。若者の関心は薄れるばかりだ。第二次大戦の最大の惨禍とされるアウシュビッツとヒロシマ、そしてわが国で唯一戦場となった沖縄。兵士ではない女性たちにも容赦なく悲劇は襲った。私は新聞記者としてその場に立ち、膨大な証言と遺品に向き合ってきた。伝えるべき事実は今も存在する。きっと初めて知ることが多いだろう。しかし、この講義に登場するのはすべて、みなさんと年齢の変わらない女性ばかりだ。身近に感じることができる、と考え「戦争と女性」をキーワードにした。戦争遺跡の保存、証言者からの継承など、新しい試みを織り交ぜる。現代の戦争にも触れる。映像、写真を駆使し、遺品や遺書も数多く登場させる。今回受講者の定員を200人と倍増させた。2014年後期には495人の受講希望者があり、多くの学生から「戦争を知りたい」という声寄せられたためである。	「戦争はいけない」。それは小学生の感想である。大学生ならそこから一歩踏み出さなくてはならない。目を背けては何も生まれぬ。向き合うことからはじめよう。酷い事実や映像も出てくるが、これまでも受講した多くの学生が凝視してきた。ポーランドのアウシュビッツを訪問した学生がいる。広島・長崎、沖縄に行き、授業で学んだ戦争を現地で追体験した学生も多い。このように生まれた関心を「行動」にまで高めることは大切なことである。戦争を考える場合は数多くある。「火垂るの墓」もここ西宮が舞台だ。母となって子供たちに関わってもらったじろがないぐらいの知識は身につけてもらいたい。この授業を通じて、祖父母の戦争体験を聞くようになった学生たちもいる。自宅に持ち帰った授業資料をもとに家族と語り合うという人も。戦争を遠い世界の出来事と思わないようになること。それを目標にしてみたい。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉がある。その意味を確かめてみよう。	「わかりやすく」に力点を置く。映像や文学などの記録を活用する。毎週、授業の内容について「コミュニケーションシート」(CS)に記入させて理解度を確認。採点をするとともに、次回授業で詳細に紹介、受講者と共有する。同時に受講者からの疑問、提案を授業に速やかに反映させ、双方向授業、課題発見を意識する。採点結果と特記事項の連絡は学習支援システムμ Camを活用する。	7月6日は関西TVの取材あり。ただし参観を妨げるものではない。